

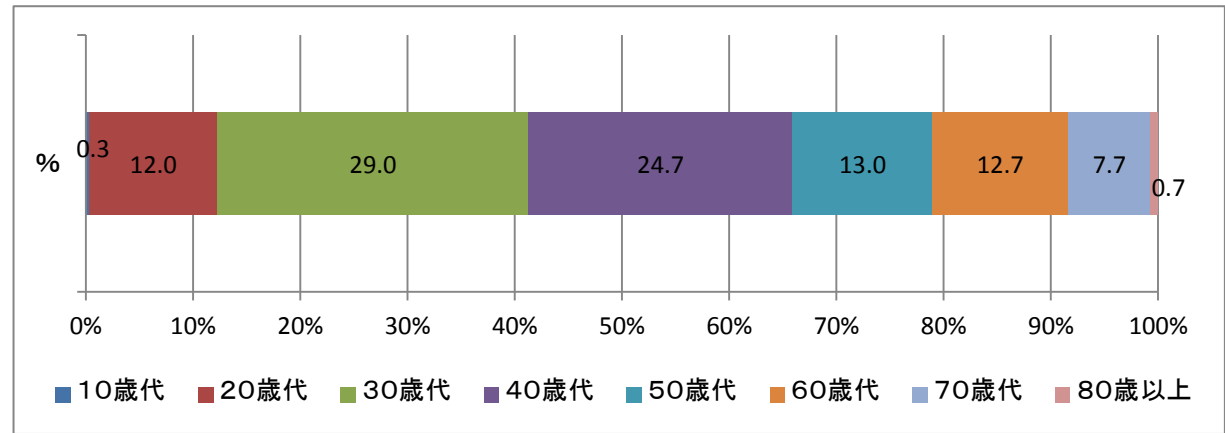
「防災意識について」の調査結果

□ 調査期間 平成25年9月3日～平成25年9月17日

□ 調査の趣旨 9月は防災月間です。皆さまが普段行っている防災対策や防災に対する意識について把握し、今後の市の防災対策に活かしたいので、皆様のご意見をお聞きました。
また、これを機に、防災について改めて意識していただけるよう、アンケートを実施しました。

□ 対象者数 300（平成25年9月3日現在）

(内訳)	人数	%
10歳代	1	0.3
20歳代	36	12.0
30歳代	87	29.0
40歳代	74	24.7
50歳代	39	13.0
60歳代	38	12.7
70歳代	23	7.7
80歳以上	2	0.7
合計	300	100.1

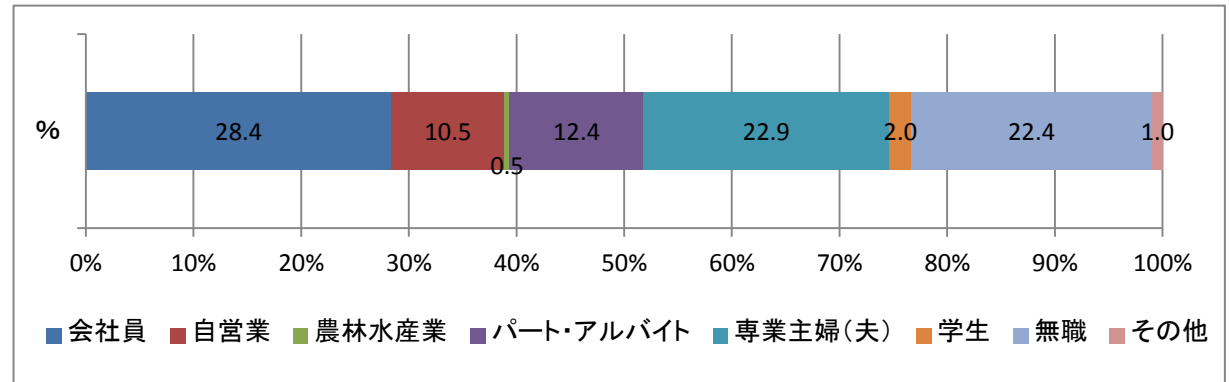


□ 回答者数 201

□ 回答率 67.0%（平成25年9月17日時点）

【ご職業】

回答	回答数	%
会社員	57	28.4
自営業	21	10.5
農林水産業	1	0.5
パート・アルバイト	25	12.4
専業主婦(夫)	46	22.9
学生	4	2.0
無職	45	22.4
その他	2	1.0
合計	201	100.1

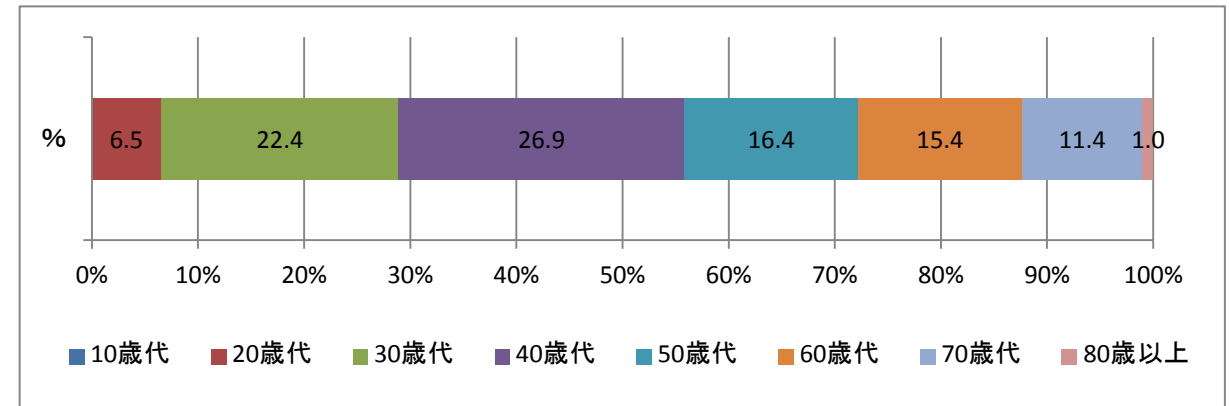


その他のご職業

- ・団体役員
- ・フリーランス

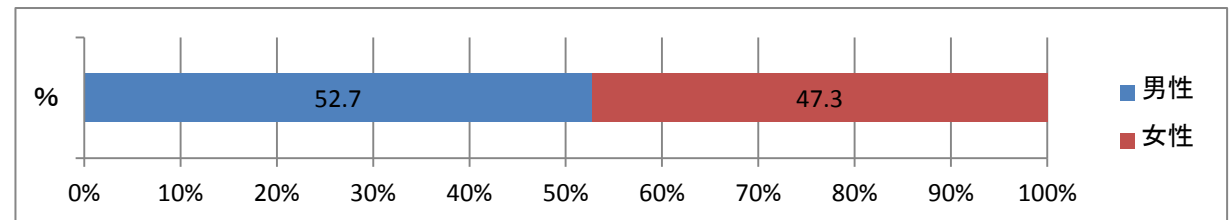
【年齢】

回答	回答数	%
10歳代	0	0.0
20歳代	13	6.5
30歳代	45	22.4
40歳代	54	26.9
50歳代	33	16.4
60歳代	31	15.4
70歳代	23	11.4
80歳以上	2	1.0
合計	201	100.0



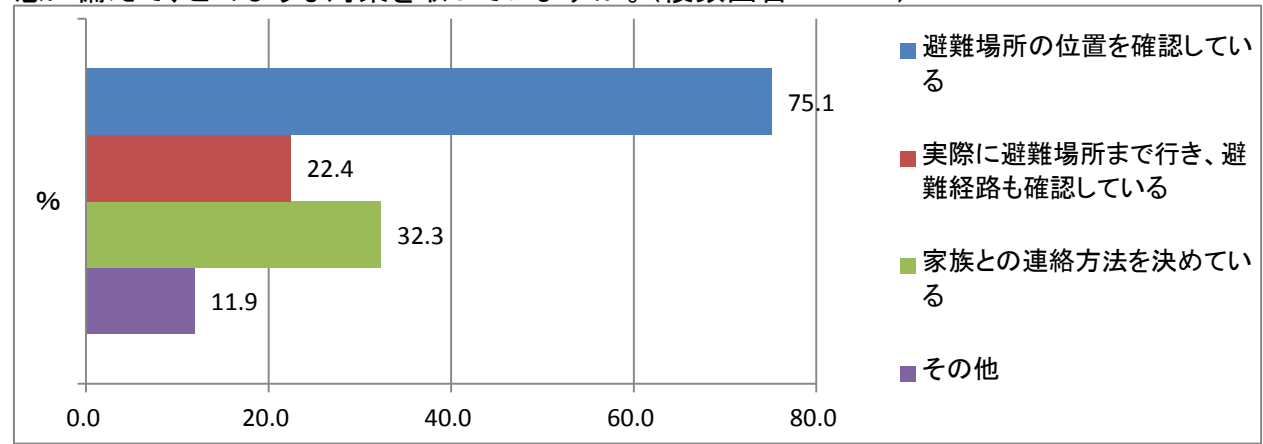
【性別】

回答	回答数	%
男性	106	52.7
女性	95	47.3
合計	201	100.0



問1 あなたやご家族は、災害発生により避難しなければならない事態に備えて、どのような対策を取っていますか。(複数回答 N=201)

回答	回答数	%
避難場所の位置を確認している	151	75.1
実際に避難場所まで行き、避難経路も確認している	45	22.4
家族との連絡方法を決めている	65	32.3
その他	24	11.9

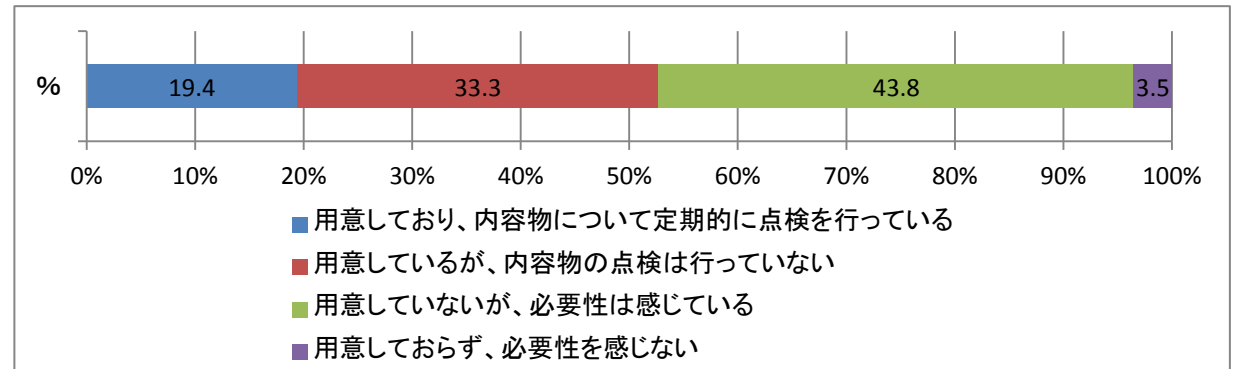


問1-1 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

- ・特に何もしていない。
- ・現在の場所で可能な限り対応。
- ・非常持出バッグを用意している。
- ・自分の住んでいるマンションが、近所で一番高いので、ここを避難場所と思い、いざと言う場合に近隣の人々をどのように受け入れたらよいか、考えている。
- ・必ず後で会えるから、まず自分が助かるよう行動しなさいと話しています。
- ・スマートフォンに災害用アプリを入れている。
- ・近くの家より建物が高いので屋上に逃れるようにしている。
- ・緊急避難時の行動手順カードを作成している。
- ・緊急避難時の持ち出し物を用意している
- ・避難場所ですが、消防署での掲示場所と自治会での指定場所と違ったので再確認しようと思っている。
- ・地域の避難方法を考えている。

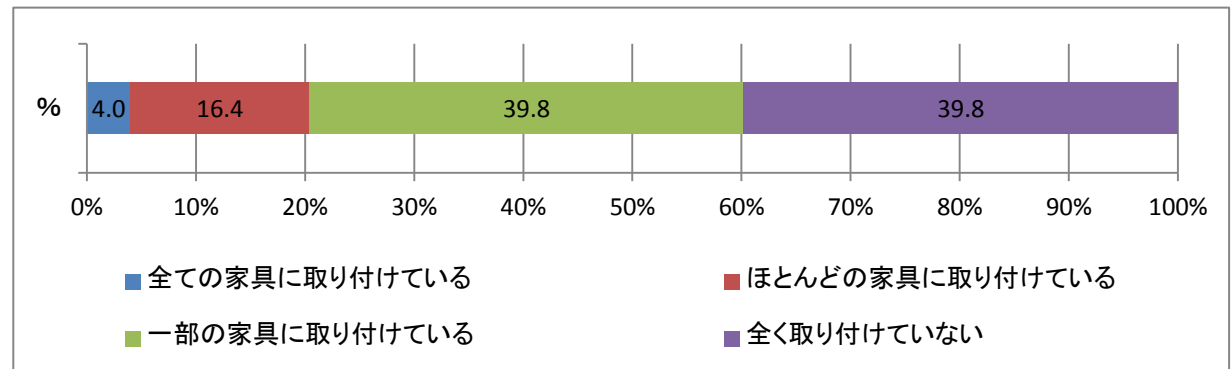
問2 あなたは、災害に備えて「非常持出袋」を用意していますか。

回答	回答数	%
用意しており、内容物について定期的に点検を行っている	39	19.4
用意しているが、内容物の点検は行っていない	67	33.3
用意していないが、必要性は感じている	88	43.8
用意しておらず、必要性を感じない	7	3.5
合計	201	100.0



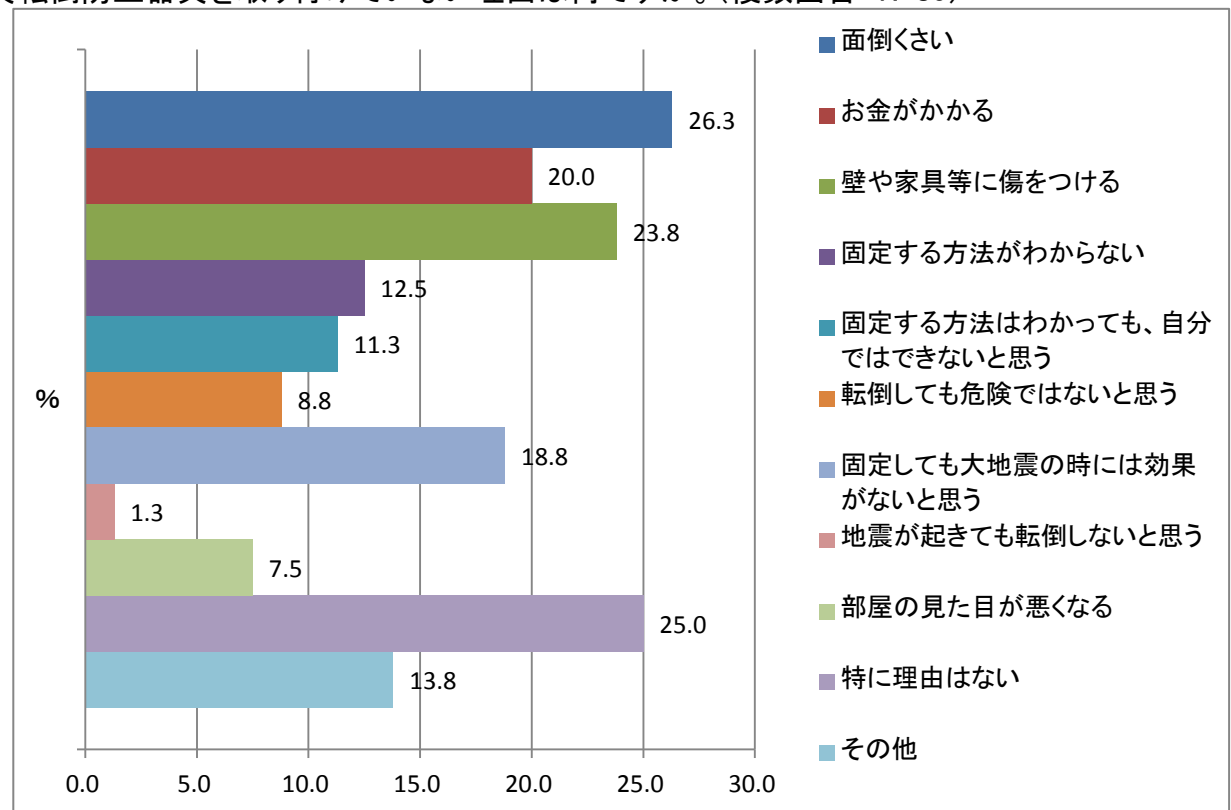
問3 ご自宅では、家具転倒防止器具の取り付けを行っていますか。

回答	回答数	%
全ての家具に取り付けている	8	4.0
ほとんどの家具に取り付けている	33	16.4
一部の家具に取り付けている	80	39.8
全く取り付けしていない	80	39.8
合計	201	100.0



問3-1 「全く取り付けしていない」と回答された方にお聞きします。家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。(複数回答 N=80)

回答	回答数	%
面倒くさい	21	26.3
お金がかかる	16	20.0
壁や家具等に傷をつける	19	23.8
固定する方法がわからない	10	12.5
固定する方法はわかっても、自分ではできないと思う	9	11.3
転倒しても危険ではないと思う	7	8.8
固定しても大地震の時には効果がないと思う	15	18.8
地震が起きても転倒しないと思う	1	1.3
部屋の見た目が悪くなる	6	7.5
特に理由はない	20	25.0
その他	11	13.8

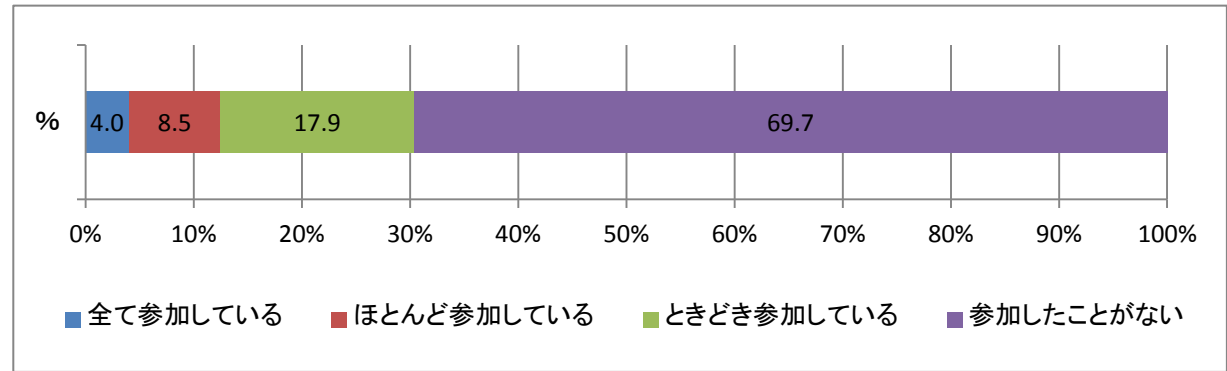


問3-1-1 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

- ・レンタル(借家)のため、勝手に壁や床に穴を開けるなどできないため。
- ・最近の家屋は家具転倒防止器具を取り付けられる様な壁が無いので、一部屋だけ、家具等の全く無い部屋を作り、そこで寝るようにしている。
- ・家具を天井までの高さにして、倒れないようにしている。
- ・一人暮らしなので家具が少なく、倒れると危険な大きさの家具がない。
- ・防災を意識して家具購入をした。背の高い家具は購入しない。
- ・家具類がないため。
- ・特に倒れてケガをしそうな大きな家具がない。

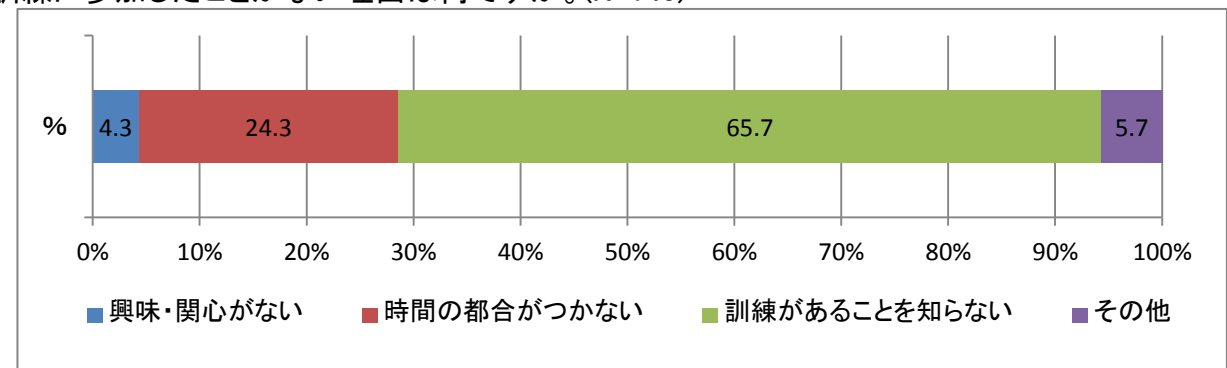
問4 市や自治会が開催する防災訓練などに参加していますか。

回答	回答数	%
全て参加している	8	4.0
ほとんど参加している	17	8.5
ときどき参加している	36	17.9
参加したことがない	140	69.7
合計	201	100.1



問4-1 「参加したことがない」と回答された方にお聞きします。防災訓練に参加したことがない理由は何ですか。(N=140)

回答	回答数	%
興味・関心がない	6	4.3
時間の都合がつかない	34	24.3
訓練があることを知らない	92	65.7
その他	8	5.7
合計	140	100.0

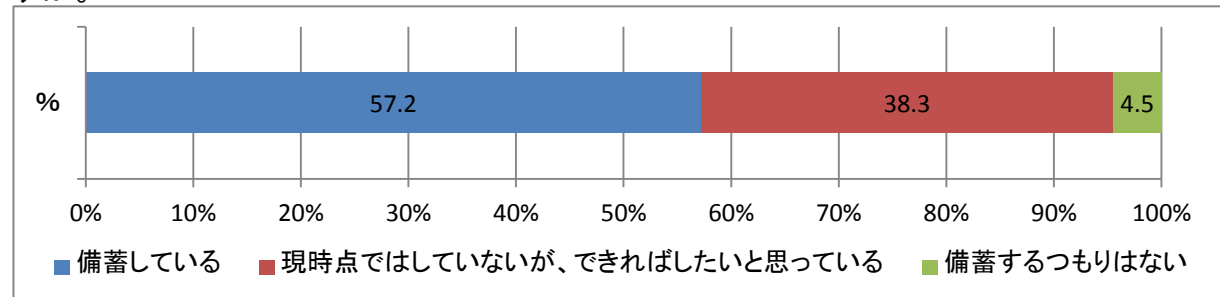


問4-1-1 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

- ・自治会ではまだ防災訓練等なし。
- ・在職中に相当回数訓練経験が有るので必要と思わない。
- ・健脚でない。
- ・病気療養中だから。
- ・防災訓練だけのために出向くのが面倒。何か家族で参加できるイベントと同時開催ならば出てみてもいいと思う。

問5 あなたの家では、災害に備えて、飲料水や食料品を備蓄していますか。

回答	回答数	%
備蓄している	115	57.2
現時点ではしていないが、できれば したいと思っている	77	38.3
備蓄するつもりはない	9	4.5
合計	201	100.0



問5-1 「現時点ではしていないが、できればしたいと思っている」と回答された方にお聞きします。備蓄していない理由は何ですか。(この設問は任意回答です。)

- ・海に近く海拔も低いので、津波等があった時は備蓄しても役に立たないと思われる。
- ・どの商品を買うべきか迷うから。
- ・交換するのを忘れる。
- ・どのようなものを備蓄しておくべきか分からない。
- ・めんどくさい、用意しても持ち出せない気がするから。
- ・備蓄場所がない。
- ・これからやろうという気持ちだけはあります。
- ・新しい地震津波の予測が示されておらず、どのタイミングで準備したらよいか、判断しかねている。
- ・緊迫した感じがしないから。
- ・面倒で、いつ起こるかわからないのに場所をとるわけにはいかない。
- ・水は箱買いで準備していますが、食料は消費期限がありどのようなものをどれ位用意しておけばいいのかわからない。
- ・いつでも準備できるという気持ちがある。
- ・以前は、備蓄していたが、賞味期限切れ前に利用し、そのまま備蓄していない状態になっている。気付いた際は、指摘しているが、家族の意識が薄い。
- ・必要性は感じているがなかなか実行できていない状態。

問5-2 「備蓄するつもりはない」と回答された方にお聞きします。備蓄しない理由は何ですか。(この設問は任意回答です。)

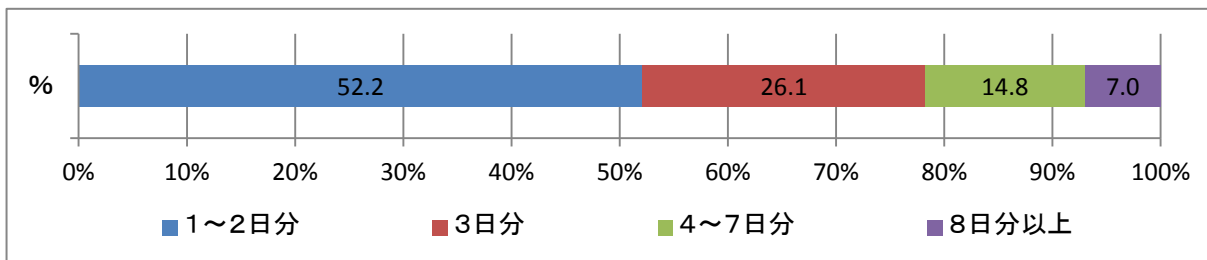
- ・必要性を感じない。
- ・いざという時に持ち出せない。
- ・準備するのが面倒なので。
- ・専用に備蓄していない、ある程度のストックを入れ替えながら普段は過ごしています。
- ・まず生命を守りその次に考える。

問6 「備蓄している」と回答された方にお聞きします。家庭での備蓄は家族全員で何日分ありますか。(N=115)

※1日分とは、飲料水は一人3リットル、食料品は3食分が目安です。

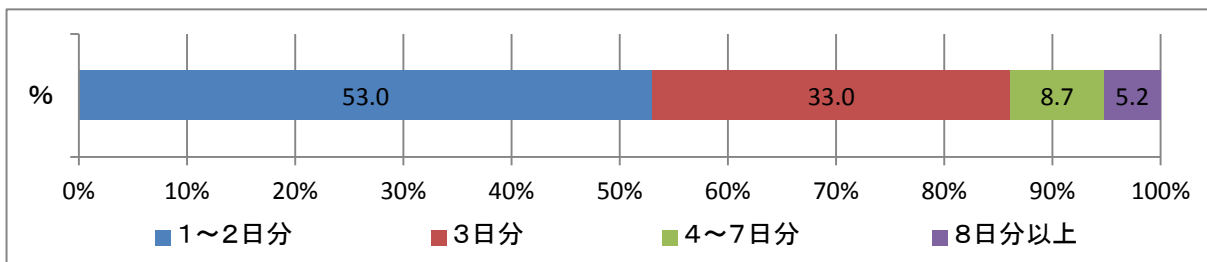
【飲料水】

回答	回答数	%
1~2日分	60	52.2
3日分	30	26.1
4~7日分	17	14.8
8日分以上	8	7.0
合計	115	100.1



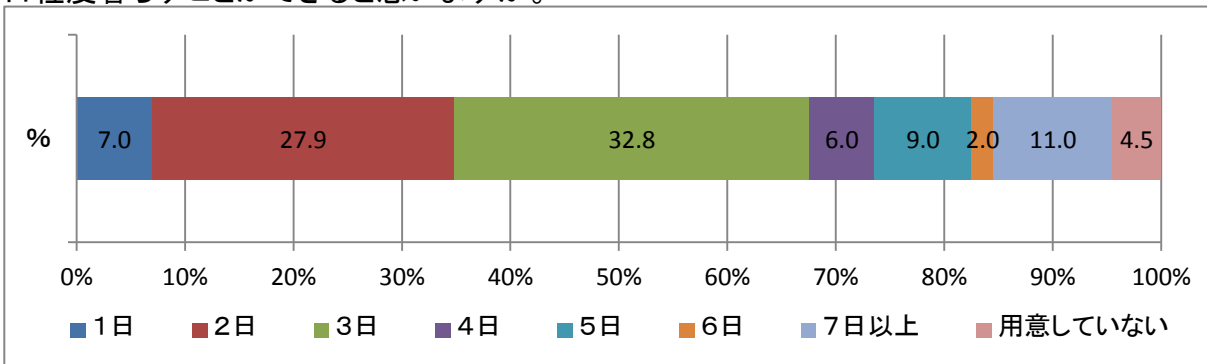
【食料品】

回答	回答数	%
1~2日分	61	53.0
3日分	38	33.0
4~7日分	10	8.7
8日分以上	6	5.2
合計	115	99.9



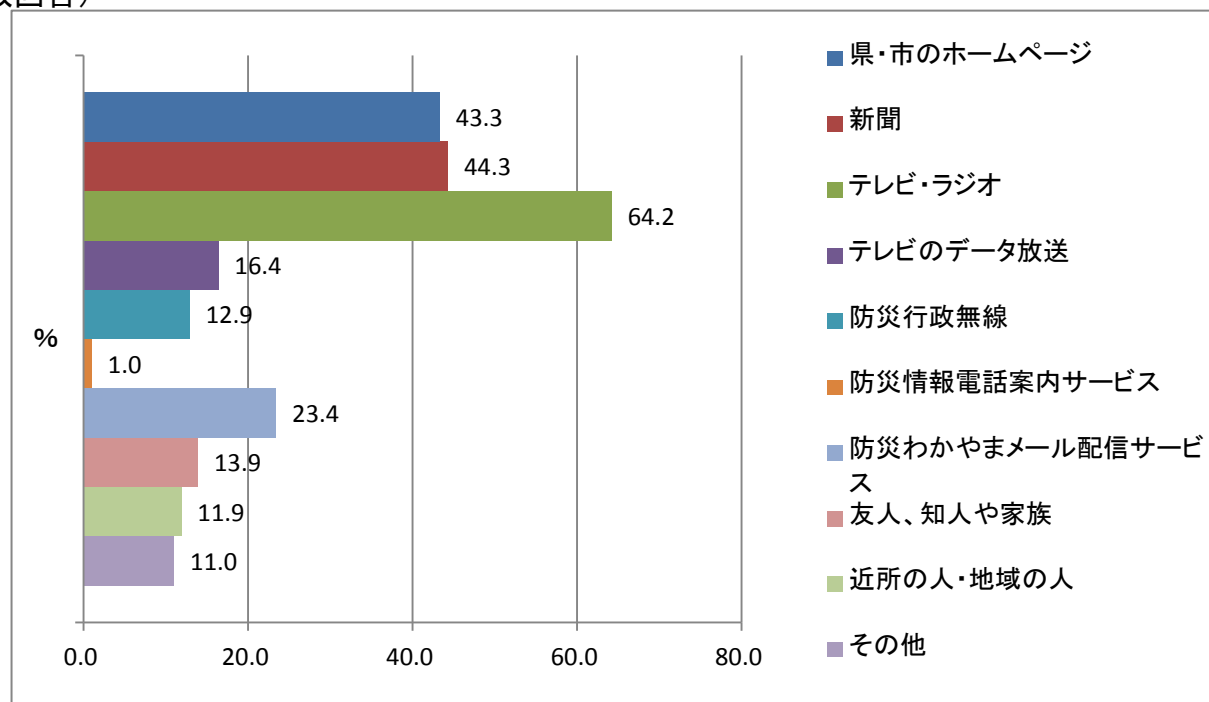
問7 あなたは、自宅に普段から買い置きしている食料で、災害時に何日程度暮らすことができますか。

回答	回答数	%
1日	14	7.0
2日	56	27.9
3日	66	32.8
4日	12	6.0
5日	18	9.0
6日	4	2.0
7日以上	22	11.0
用意していない	9	4.5
合計	201	100.2



問8 あなたは、防災に関する情報をどこから入手していますか。(複数回答)

回答	回答数	%
県・市のホームページ	87	43.3
新聞	89	44.3
テレビ・ラジオ	129	64.2
テレビのデータ放送	33	16.4
防災行政無線	26	12.9
防災情報電話案内サービス	2	1.0
防災わかやまメール配信サービス	47	23.4
友人、知人や家族	28	13.9
近所の人・地域の人	24	11.9
その他	22	11.0

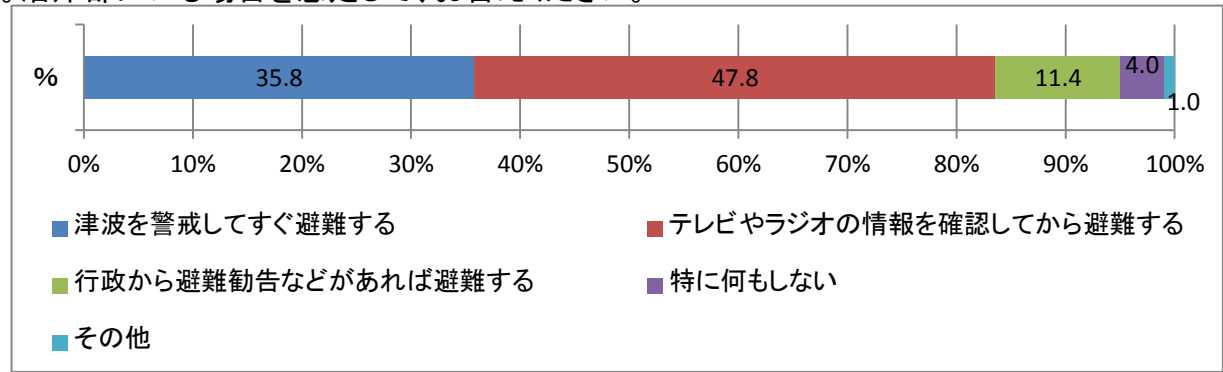


問8-1 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

- ・特に入手していない。
- ・市報わかやまや市・県の防災課に時折行って資料をもらってくる。
- ・携帯電話
- ・インターネットの災害掲示板など。
- ・国の総合防災会議の議事録をネットで確認し、土木学会をはじめ県・市の防災対策セミナー等には欠かさず参加し、情報の収集に努めている。
- ・インターネット、雑誌等
- ・市報わかやま、回覧板
- ・フリーペーパー
- ・職場
- ・建築士であるのである程度の知識がある。
- ・ツイッター、スマートフォンアプリなど。

問9 大きな揺れを感じた場合、津波に備えてどのように行動しますか。沿岸部にいる場合を想定して、お答えください。

回答	回答数	%
津波を警戒してすぐ避難する	72	35.8
テレビやラジオの情報を確認してから避難する	96	47.8
行政から避難勧告などがあれば避難する	23	11.4
特に何もしない	8	4.0
その他	2	1.0
合計	201	100.0



問9-1 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。

- ・津波より家屋の倒壊と火災。
- ・ツイッターから情報を読んで避難する。

問10 防災対策について、ご意見等ございましたらご記入ください。(この設問は任意回答です。)

※主な意見を掲載しています(個人情報や固有名詞を除いて、原文に近い文章で掲載しています。)

- ・各家庭に発電ライト、ラジオは必ず必要。車での避難は禁止。
- ・すぐ近くに山があるが、避難できる通路がない。
- ・和歌山は高台が少ないから、万が一地震が起きたらどこに逃げれば良いかわからない。
- ・県と市は常に防災を心掛けるよう、注意を市民に喚起させることです。
- ・外出中に地震が起きたとしたら、建物が倒壊、半倒壊し階段等が使用できなくなると、備蓄していても持ち出せない。避難所で食料が確保できるのか心配だ。
- ・本当に助かるのかどうか不安を感じます。ライフラインが断たれてしまうと、まず避難用品よりは避難場所を確保したいと考えています。
- ・いつか災害が来るとわかっていても、なかなか準備しない、出来ない人が多いと思うので、市が率先して、啓発・PRして欲しい。
- ・大きな地震が起こった時、自分の住んでいる地域にも津波や河川の水が来るのかが分からなくて不安です。
- ・行政任せでなく、個人でも努力しなければいけないと思う。
- ・警報などが出た場合に、マイクを使用した放送をしてくれていますが、2割程度しか内容を把握できません。
- ・公共の建物には非常時だけ入れる屋上などをつくり、一般の人が少しでも高い位置に逃げられるように出来ないでしょうか。
- ・防災無線のアナウンスは立地条件により聞き取りにくい。最初にサイレン吹鳴後に音声アナウンスが良いのではないかと。
- ・毎年、自治会で行っている訓練には必ず参加しています。しかし、訓練の内容では、本当に避難することがあった時には、役立たない気がします。もっと、本格的にした方がいいと思います。
- ・震災で、橋が壊れるかもしれないが道路より有効に使えると思う。今からでいいから河川の周辺を利用できるように対策を立ててほしい。
- ・とにかく身の安全を確保するのが1番先だと思います。

- ・防災対策に対して、少し過剰になっている気がする。過大な予想に対して、過大な対応を行っている。必要最小限にとどめれば良いと思う。
- ・家族に障害者がいます。気がかりです。
- ・飲料水や食料品の備蓄について、市から配給もしくは購入の斡旋をする。
- ・自治体が、備蓄している食糧の内容や、保管場所を明確にして、公表してほしい。
- ・個人での食料備蓄量について、何日分を備蓄する必要があるのか。明確な情報を発表してほしい。
- ・道路の海拔高さ表示が増えてき、避難の必要な場所の低い所の高さは表示されていますが、何処まで逃げたら安全と思われる場所の高さ表示がないと避難の目安になりません。例えば秋葉山としたら、頂上と途中の道のところどころに標高を表示すると、ここは20mだから10mの津波の時は大丈夫と日ごろから覚えておける。逃げろはわかるが何処まで逃げろが分からない。足の不自由な者にとっては重大な問題です。
- ・住居を中心に防災対策を立てられているが、どこで災害に遭うかわからないという危機意識を持っていたい。
- ・市が中心となって、自治会単位の防災マニュアルを作成してほしい。
- ・防災訓練は、実際起こらなければ、あまり関心がないのに驚きました。しかし、訓練をいろんな形で度々行うことが必要ではと思います。先日の訓練で感じたことは、全員参加するようになればと思いました。危機感が薄いように感じました。訓練方法も考えるべきではと思います。
- ・災害について、何時発生するか判らないし、発生しても自分だけではないと安易に考えず、1週間程度の生活できる備蓄と、津波などでは警報が発令されたら即避難する心構えが必要です。避難に無駄はありません。
- ・情報が入りやすいようにしてほしい。
- ・市内各所に海拔標識が出来たのは避難の必要性がよく判って良い。
- ・市民会館、ビッグホール等参加しやすい場所で講演会、訓練(避難時の生活方法)等を繰り返し実施すればさらに防災意識が向上すると思われる。
- ・地域ごとにより防災対策が異なる。地域住民で話し合うべき。
- ・赤ちゃんがいるので赤ちゃんがいる家庭や寝たきりの人とか向けの防災訓練、フリーペーパーとかしてほしい。
- ・出前の防災講座。特に高齢者に対する防災対策、消防等での備蓄品等の販売。
- ・避難場所までの整備をもっとしてほしい。
- ・県や市で、一斉に防災を考える日を設けたら良いと思う。災害があっても日が経つにつれて意識が薄れていくので、年に1度でも防災を意識する日があるとよい。一斉にすることで他人事ではなく、自分にも関係あると徐々に認識するのではないかと思います。
- ・避難場所の提示を街中にしてほしい。

☆たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。和歌山市においては、中央構造線による直下型地震や南海トラフの巨大地震が危惧されています。このため、防災意識の高揚や防災活動の支援に取り組んでいるところですので、今回のアンケート結果やご意見なども参考に今後の防災対策を進めてまいりたいと思います。